

将来、福祉施設、福祉団体等で相談・援助にあたる人材の養成に当たっては、すべての入試科目が入学後の勉学の基礎となる。国語や英語は後の基本学習（基礎教養科目）に影響することは言うまでもない。一般入試における数学の導入は福祉工学方面の進路を意図しており、学科のカリキュラムを意識して設定された。数学はさらに社会調査や統計学といった科目及びそれと密接に関わる諸科目との関連性が深まることになると評価される。

【課題・方策】 福祉の社会基盤は残念ながら十分に整ってはいない。厳しい福祉現場の現実と福祉の重要性の狭間でこの両面を理解して、なお、福祉の勉学に意欲をもって入学してくる学生を選抜することが継続的な課題である。

福祉を学びたいという学生の中には、自らの問題を出発点としている学生も少なくない。とくに精神保健や心理学を学びたいという志願者には、自分の心の問題を抱えている者も散見される。教育の可能性を無限に信じるのでもなく、また問題を抱えている学生を一律に遠ざけるのでもなく、学科内の専門家の意見等を参考に選抜していく努力は今後とも必要であろう。

4 入学者選抜の仕組み

1) 入学者選抜試験実施体制の適切性

(B群：入学者選抜試験実施体制の適切性)

【現状の説明】 入学者選抜の組織は、入学者選抜を有効かつ円滑に行うため、「聖学院大学入学者選抜規程」に基づき、学長のもとに入学者選抜実施委員会（以下「入試委員会」という。）が置かれている。

入試委員会の構成は、学長、大学チャプレン、学部長、学部チャプレン、学科長、教務部長、学生部長、広報部長、就職部長、国際部長、その他教授、助教授、講師のうちから学長が大学教授会において指名した者、事務局長、である。

入試委員会は、次の業務を行う。(1)入学者選抜の制度、方法、日程等の検討、(2)入学者選抜実施の管理、運営、(3)その他必要な事項

入試事務に関する取り扱いは、アドミッションセンター（p.362）で行っている。

入試合格者の判定は、学科会において審議の上、入試委員会、大学教授会の議を経て決定されている。

入試実施方法等の決定にあたってはしばしば、激しい論議が戦わされるが、入試実施に際しては、全教職員が一致団結して各々役目を分担している。

【点検・評価】 入学者選抜試験実施には全学挙げて教職員が協力して取り組んでいること、合否の判定
【課題・方策】 は学科会、入試委員会、全学教授会と3段階の検討を経て決定され、選抜の公正性と全

第4章 学生の受け入れ

学的統一基準を確認していることは評価できる。

入試の形態は多様化し、AO入試を別にしても入試回数は6回を超えようとしている。公正性と全学的統一を取りつつも、教職員が負担過重にならないような工夫が必要である。

2) 入学者選抜基準の透明性と結果の公正性・妥当性

(B群:入学者選抜基準の透明性)

(C群:入学者選抜とその結果の公正性・妥当性を確保するシステムの導入状況)

【現状の説明】 本学では、アドミッションズポリシーを明確にし、AO入試、推薦入試、自己表現入試、一般入試という4形態の入試の審査方法および評価方法を明らかにすることにより、入学者選抜基準の透明性を確保している。

アドミッションセンターでは、年度毎のデータブックを発行しているが、その中で一般入試においては、A、B、C日程試験及びその正答を公開しており、また合格最低点をも公表している。また、入試内容があいまいになりがちなAO入試や自己表現入試においては、各学科の求める学生像を明らかにし、入学者選抜基準の透明性を高める努力をしている。

こうした点については、高校教員を対象とした大学説明会（p.155 参照）において説明するとともに、高校訪問をする際に、進路指導担当教員にも説明を行っている。さらに、アドミッションズポリシーの内容は冊子化されており、オープンキャンパス等で本学を訪れる高校生には冊子を配布するとともに、その内容の説明を行っている。

【点検・評価】 各入試における出願状況は毎日集計し、ホームページ上に公表している。年度毎の入試結果は、出願者数・受験者数・合格者数・入学者数別に詳細に集計し、データブックとして公表している。また、入学案内（冊子）、アドミッションズポリシー（冊子）等を発行して、入試における審査方法、「聖学院大学が求める学生像」を文書化して明らかにしている。これらは入学者選抜基準の透明性と入学者選抜とその結果の公正性・妥当性を確保する手段として評価される。

【課題・方策】 入学定員数の確保を優先し、少なからぬ大学が出願者数等を非公開とし始めている。選抜基準の透明性、選抜の公正性・妥当性を保ちつつ、入学定員数と入学者の質を保つ努力が今後の課題である。